解説２　一色城跡について

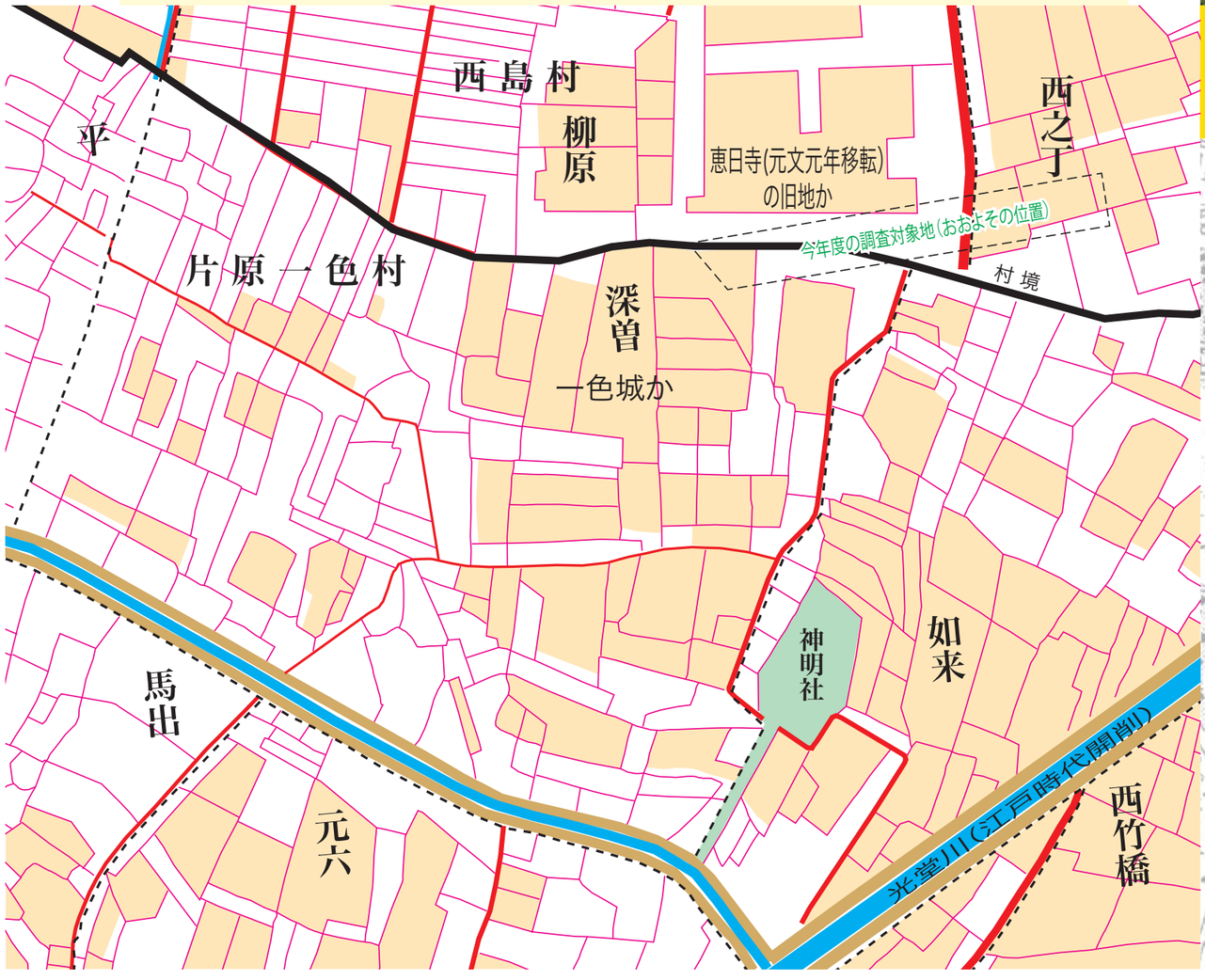
【１】一色城跡は、江戸時代の史料に記されています。

『寛文村々覚書』（1672 年完成）「古城跡壱ヶ所　先年橋本伊賀守居城之由、今ハ畑に成」
『張州府志』（1752 年完成）「一色城　在片原一色村　橋本伊賀守居之　今為田圃」
『蓬州旧勝録』（1779 年自序）「片原一色村　橋本伊賀守居城」
『尾張徇行記』（1822 年完成）「一　一色城　府志古城部日、在片原一色村　橋本伊賀守居之、
今為田圃　覚書同之」）

【２】『片原一色村誌』（1888 年）では詳細な記述があります。ただしこれらの典拠は不明です。

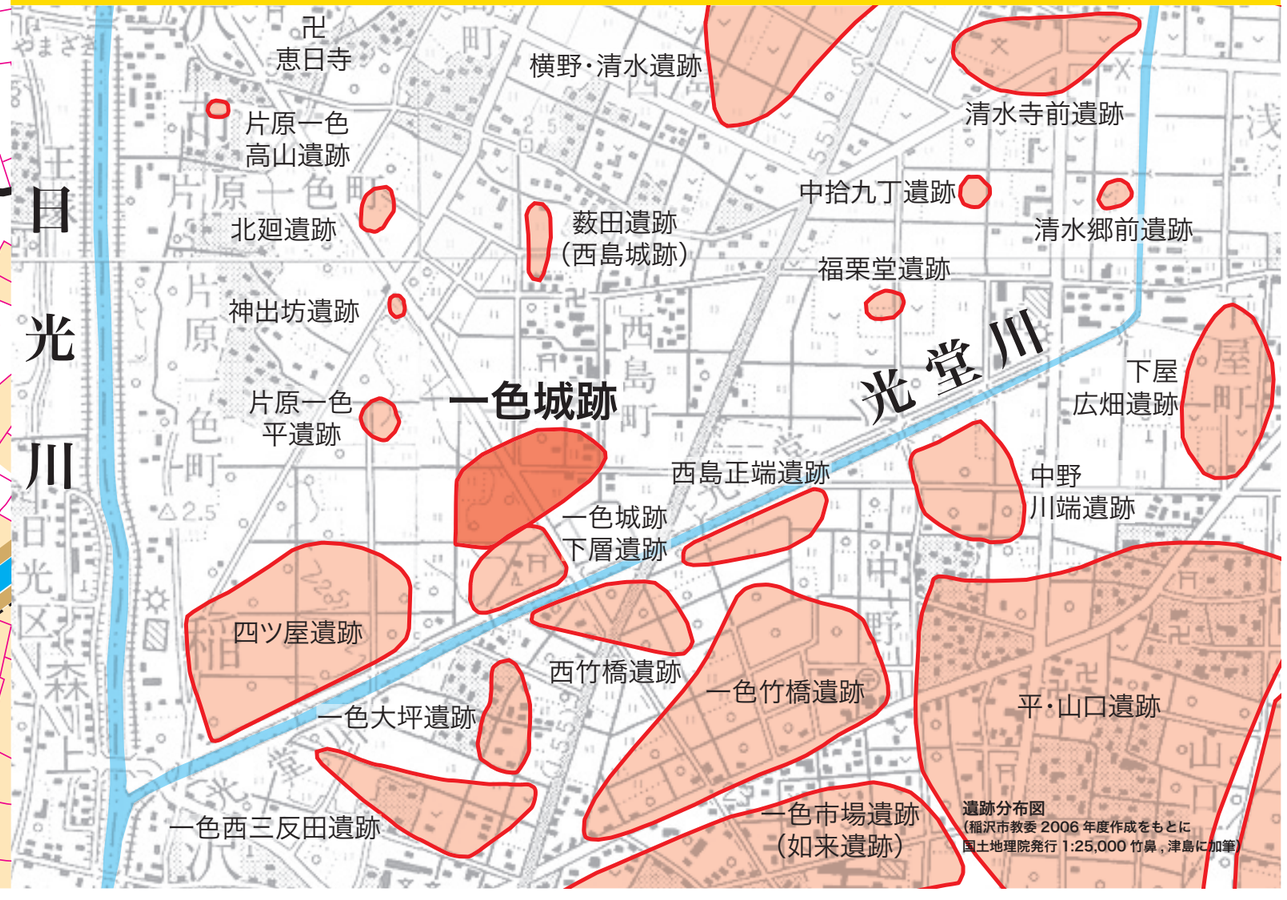
「　橋本氏古城趾
所在　上方　字古城　地租改正ノ際深曽ト改ム　堀跡深キニヨルナルベシ寛文九年酉三月新田開墾検地帳ヲ案スルニ
内城総城トアリ
現状　圃トナリ堀ハ田トナレリ　畑二町三セ二十一歩　田一反二セ二十八歩　合二町一反六畝十九歩
雑項　此処ハ【中略】橋本伊賀守道求、橋本伊賀守道一、橋本伊賀守伊兵衛尉道正、橋本甚太郎正太　八代相傳ヘテ
居城セシカ【中略】古城跡は【中略】内城東西一町程南北四五十間　裏手ノ方ニハ祖父江大膳亮信勝【中略】
開基ノ寺ナル恵日寺アリ　其北ニ祖父江氏ノ居城アリ　東ニ城ノ鎮守直会ノ社アリ　南ニ総城アリテ二重ノ堀
ヲ構ヘ【以下略】」

【３】明治時代の地籍図（愛知県公文書館蔵）をもとに作成。色のない部分が水田で、他より低いと推定され、旧河道や堀・溝の跡の可能性が考えられます。字深曽の地割には土橋状の部分があるなど、今後の発掘調査にあたって注意すべき点がいくつかみられます。



愛知県稲沢市　一色城跡

地元説明会資料　令和元年（2019）11 月２日（土）
調査主体：（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
調査支援：（株）島田組



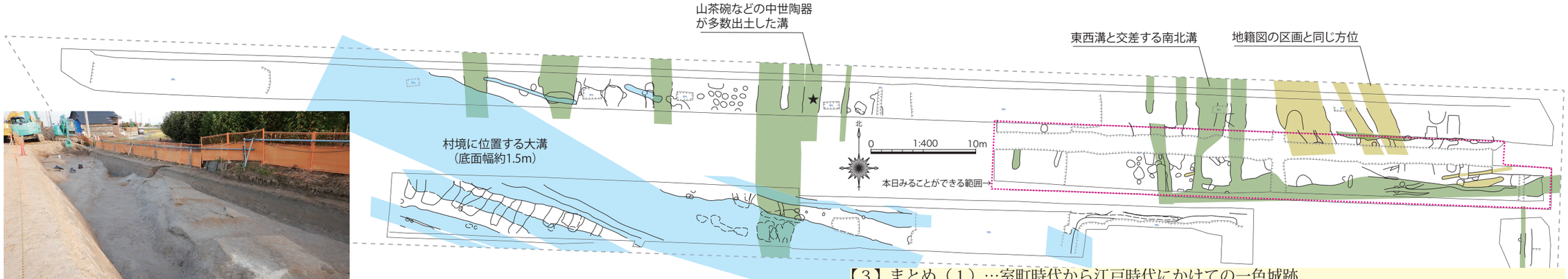
解説１　発掘調査の概要

【事業の概要】
一色城跡では、県道給父稲沢線の改良工事にともない、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を進めています。今年度の調査面積は 2,500㎡、期間は令和元年７月～ 12 月（予定）です。

【１】上面の遺構
表土（耕作土や最近の埋め立て土など）を約 80cm 掘り下げると、室町時代から江戸時代にかけての遺構がみえてきます。その大半は溝で、のびている方向によって３つのグループに分けることができます。

中世陶器が多数出土した南北溝（北から）

【２】屋敷地区画の溝と村境の溝
正方位（東西・南北）にのびる溝は交差し、区画になってます。溝からは、14 ～ 16 世紀の陶器が出土しています。一方、斜方位の大溝は、江戸時代の片原一色村と西島村の境に位置しています。



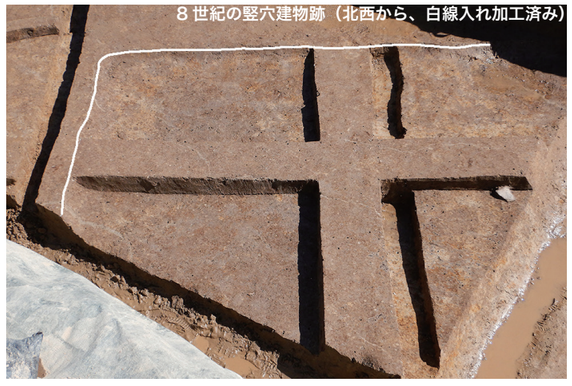
村境に位置する大溝（北西から）

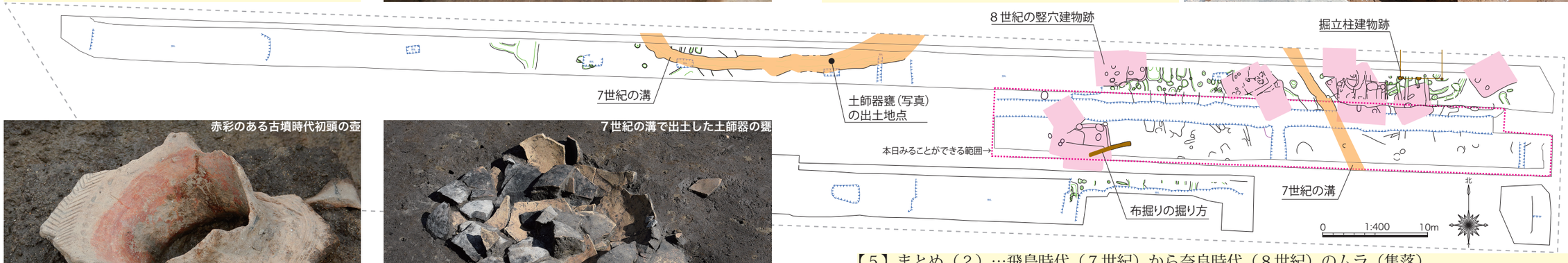
【３】まとめ（１）…室町時代から江戸時代にかけての一色城跡
中世陶器が多数出土した地点（★印）は、恵日寺の旧地に近い点が注目されます。また村境の大溝は最下層が 16 世紀にさかのぼることから、一色城との関連を解明する手がかりになると考えられます。

【４】下面の遺構
一色城跡は沖積地の微高地に立地しています。その基盤層に近いところ（地表約 1m 下）では、弥生時代後期から奈良時代の竪穴建物跡や溝を確認しました。
古墳時代初め頃の「S 字甕」や、飛鳥・奈良時代の須恵器や、土師器の「伊勢型甕」など、各時代の日常生活で使われていた土器が多数出土しました。

集落を囲う？７世紀の溝（南西から）

【５】ぐるりと廻る？７世紀の溝
調査区の北辺では、緩くカーブする溝が確認されました。多数の須恵器や土師器の甕が出土しており、ほとんどが７世紀のものです。溝は、さらに北へのびており、調査区北側に想定される７世紀の集落を取り囲んでいたのかもしれません。
８世紀の集落は竪穴建物が主体ですが、掘立柱建物の柱穴や、溝状に掘った掘り方に柱を立てた布掘り掘立柱建物跡も検出されました。


８世紀の竪穴建物跡（北西から、白線入れ加工済み）



赤彩のある古墳時代初頭の壺

７世紀の溝で出土した土師器の甕

【５】まとめ（２）…飛鳥時代（７世紀）から奈良時代（８世紀）のムラ（集落）
７～８世紀の間に、集落が微高地上で移動・拡大したと考えられます。一方、遺跡の周辺は河道や湿地だったようで、調査区の南西部では遺構や遺物がほとんどみられません。